

愛知国際病院ホスピスだより

2010. 1

〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山 987-31

電話 代 表 (0561)73-7721

ホスピス (0561)73-3191

新年を迎えて

理事長 川原 啓 美

2010年の新年、明けましておめでとうございます。ホスピス賛助会員のみなさまをはじめ、ボランティアなど多くの方がたの熱いお祈りとご支援を、心より感謝申し上げます。

私はこの年頭、スタッフに「信頼」という言葉を今年のテーマにしたいと申しました。

昨年、私は病院、AHI、老健の有志のスタッフと共に、月1回の「定例談話会」という会合を持ち、私自身の医療者などとしての人生体験を、さらけ出すように語りました。その後各自からの感想で、私のそれらの言葉がしっかりと受け止められ、それぞれの人の心に留まったのを感じました。そして、チームで働く際、特にそれが医療や福祉などのチームである時、「信頼」が最も大切な要素であると感じたのです。

冬になって、夕刻自宅まで帰る車を待ちながら、私はいつも暗い夜空の下のホスピス病棟を見上げています。一つ一つの病室の中で過ごされる患者さんの今夜の眠りが安らかでありますように、廊下やステーションで働いているナースたちの健康が支えられ、しっかり患者さんたちと共に在ることができるように、私は心から祈っております。また家路につかれるご家族と会釈を交わしながら、その方がたの心が癒され、安らかな休息が与えられるように、とも思います。

このような、2010年をさまざまな立場で、またさまざまな形で過ごされる人びとが、強い「信頼」で結びつくことができるように、私は強く願います。



ホスピスの窓

院長 井手 宏

ホスピスの窓からは、四季折々の花々が見えます。ある日、窓の外には、きれいな梅の花が咲いていました。「梅の花が満開ですね」シャイな私は、窓の眺めから話を始めました。N子さんは、ちょっと戸惑ったような顔をして、うなずかれました。どうされたのかなと思いながら、いつものように、患者さんの枕元の低い椅子に座りました。そうすると、横になっていらっしゃる患者さんの目線と同じ高さになるからで



す。その時、どうしてN子さんが戸惑った顔をされたのか、すぐにわかりました。横になった彼女からは、梅の花が見えないのです。

その時の動揺は、今も忘れません。同じ目線でお話をしているつもりだったのに、結局自分は同じ目線には、いなかったのですから。

それから、私がどうすれば同じ目線になれるのかを、考えるようになりました。低床のベッドから、窓の

外がうまく見えないことは仕方ありませんでした。それでも、ベッドの位置を動かしたり、ベッドの背を一時的にあげることによって、窓の外の景色が見えるようになります。工夫すれば、私に見えたきれいな花が、見えるようになるのです。こうして、N子さんと満開の梅の花を一緒に楽しむことができました。

同じ目線になる—そのために低い椅子に座りますが、この時のように、私に見える景色を患者さんに見えるようにするというのも、「同じ目線になる」ことなのです。

多くの方は、不安や悲しみ、場合によってはパニックに陥るなど、押しつぶされそうな沢山の思いを抱えてホスピスに入院されます。その気持ちに寄り添うために、低い椅子にすわって同じ目線になります。それでもホスピスは、その時が来るまで「生き抜く」ところですから、私に見えるきれいな花との「新しい出会い」も大切なのです。「新しい出会い」は、誰にも訪れるもので、その「新しい出会い」に「生き抜く力」が与えられることもあります。

これからも、「同じ目線」になるために、季節の花によって、ホスピスの模様替えは繰り返されていきます。

「良い旅立ちを」との願い

協力牧師 篠田 潔

「わたしはこれからどうなるでしょうか」と聞かれる方がおられます。それは「明日がなくなる」ことが予想されるからです。元気なうちは明日があることは当然のこととして生きていますが、終末期を迎えてホスピスに入院している方にとっては、明日の確約は望めません。不安に包まれるのは当然です。



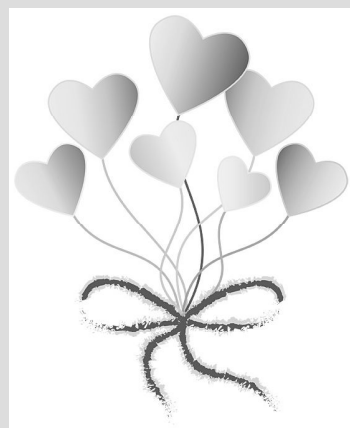
また、「死んだあとどうなるでしょう」と聞かれる方もおられます。「行き先不明」では旅立ちが不安なのも当然です。

中には「病床に横たわって、みんなのお世話になっているだけのわたしに、生きていく意味があるでしょうか」と問われる方もいます。回復を望み得ない絶望の声です。

さらには「いつまでもこんなに辛い状態にいるだけなら、死んだ方がよい。早く死なせてほしい」という方もお

られます。「安楽死」要請です。

以上のような声や要請を、ホスピスでは、医師や看護師やボランティアの人たちが聞いて、それぞれに対応していますが、とりわけ集中的に対応するのが「スピリチュアルケア」（霊的配慮）と称せられている働きであり、専任のチャプレンや協力牧師としてのわたくしに与えられている役割です。



愛知国際病院ホスピスは、愛知県下ではじめて認可を受けたホスピスとして、まもなく12年目にはいります。開設当初から、多くのみなさまのご支援をいただけてきました。これからも地域に根ざした病院として、初心をわすれず研鑽を重ねてまいります。

ホスピスを、限られた大切な時間を身近な方々と共に、その人らしく生活していただくための場としてご利用下さい。お困りの時、まずはご相談の電話をお掛け下さい。

0561-73-3191（月～金9時～16時：担当 水野）

病院敷地内にある植物シリーズ①

コーファイというニュージーランド原産の木で、国花でもあります。和名では、ハネミエンジュといい、マメ科らしいかわいい葉をつけます。

病院にあるコーファイはまだ高さ2m程度で、花をつけたことがありません。大きくなると10m以上にもなり、ニュージーランドの早春である9月頃から11月頃にかけて黄色い花を咲かせます。コーファイ (Kowhai) とは、先住民マオリの言葉で「黄色」という意味です。葉には美容に効果のある成分が含まれているとされ、エキスを練り込ませた石けんも販売されています。



(日豪ニュージーランド協会のご助力により、ニュージーランドから頂きました。この他にも、ホスピスには想いのこもった植物がたくさんあります。花が咲くことを、いまから心待ちにしています)

ホスピス利用状況 (2009. 4-12)

入院総数 101人 (男: 56人 女: 45人) 退院患者数 103人 1日平均患者数 16.8人

明日葉の会へのお誘い

明日葉の会は、愛知国際病院ホスピスで大切な家族の看取りを経験した方々が集まり、思いを声に出し、分かち合う会です。「明日葉」という植物は、今日摘んだ芽が明日には伸びてくるというほどの生命力の強い植物で、それにあやかり会の名前としました。家族を看取られてから半年以上を過ぎた方を対象として、偶数月の第3土曜日午後2時から4時、病院の一室をお借りして集いを行っています。続けて来られる方も、間を空けて来られる方もおられますので、ご都合がつく時に自由にご参加ください。

会費は集いのときに300円を頂いています。詳しくは世話人(家族代表)の太田博文までお問い合わせ下さい。

連絡先 〒470-1153 愛知県豊明市前後町三ッ谷1 2 7 7-3 太田博文
TEL0562-92-2294 Fax0562-92-8294 E-mail h-ohta@pop21.odn.ne.jp

賛助会員募集のお知らせ

愛知国際病院ホスピスでは、賛助会員を募集しています。アメニティーの充実(施設環境、造園、園芸)、ホスピスでの諸行事、ホスピス相談の充実、広報啓蒙活動、家族会の開催、ボランティアの活動、教育活動のためには是非ご協力をお願いいたします。(ご入会いただいた方には年4回発行の病院だより「みなみやま」と年2回の本誌をお送りいたします)

入会方法

下記の口座に会費をお振り込み下さい。

郵便振替口座 00890-5-3757

口座名義 愛知国際病院ホスピス賛助会

一口1000円(おいくらでも結構ですが、できましたら5口以上でお願いいたします)